

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		富士あけぼの園吉原中央		公表日 2024年10月18日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・勉強部屋、工作部屋等に応じて部屋を分けている。	・死角が多い為、職員配置を意識して安全に活動できるよう努める。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・正職員だけでなくパート含め適切な人数での運営を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			・静かに過ごせる場所が確保できていないため、仕切り等を作って落ち着ける環境を作ることが必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日必ず清掃を行い、清潔な環境を保っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・学習が集中して行えない児童やくーるダウンが必要な児童に対して、比較的静かな部屋への誘導を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・保護者から頂いた意見をもとにより良い施設を作っていけるよう努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・日々カンファレンスを行い、職員の意見を発言できる環境を作っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			・研修の情報を職員間で共有し、今後も積極的に研修に参加を行う。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・複数のプログラムを用意し、ここに寄り添った活動を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・児童発達支援管理責任者を中心に個別でのアセスメントを行いより良い療育活動を促している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			・休みの職員への伝達が遅れてしまうことがあるため、全員が情報共有を行うように徹底していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			・放課後等デイサービスガイドラインをしっかりと職員全体が理解したうえで支援を行うよう努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・施設ごと職員が集まりチーム内でプログラムの意見を出し合って共有している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・児童の希望を聞きつつ複数のプログラムを提示し、固定化されないよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			・送迎に出てしまつてその場にはいない職員は、後で内容をしっかりと伝達することを徹底していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・プログラムを複数設定することでやりたい活動を自己選択できるよう工夫をしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校での出来事について学校側と情報共有を行い、その情報をカンファレンス等でスタッフ全員に周知している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・より良い支援が出来るよう、今後は就業前に利用していた保育所や幼稚園と情報共有を行う必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・児童館へ行くことはあるが一緒に活動したことは無いので、今後は地域交流を行った活動を取り入れるよう計画していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・施設での出来事を送迎時に必ず伝え、積極的に保護者と情報共有を行うようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・保護者との対話や、保護者アンケートをもとに家族の意向を療育に取り入れるようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			・保護者参加型のプログラムは取り入れているので交流する機会がなかった訳ではないが、保護者会は行ったことが無いため、感染症の兼ね合いを見ながら計画を行っていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・苦情があった場合は上長が迅速に対応を行い、職員全体に周知を行う。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎週インスタグラムを更新し、日々の活動を保護者にわかりやすく写真で伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			・てんかん発作が起きてしまう児童の対応マニュアルが全員が出来るよう情報共有を行っている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			・ヒヤリハットを毎日記録し、職員間で共有を行うようにしている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			・虐待についての研修を必ず行い、職員全体が適切な対応を行えるようにしている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士あけぼの園 吉原中央		
○保護者評価実施期間	令和6年9月2日		～ 令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和6年9月2日		～ 令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日々の活動における保護者との情報共有の徹底が出来ている。	・その日の出来事は、伝達漏れの無いようすぐに記録に残すようにし、必ず保護者様へ伝達するサイクルを作っている。	・職員間で情報共有を行い、どの職員でも同じように報告が出来るよう、体制を作る。
2	・活動が固定化しないよう複数のプログラムを用意しているため、子ども自身が行いたい活動を選択できること。	・子どもにやりたい活動を選択してもらうことで、自己決定力を高めることが出来るようになっている。	・土曜日プログラムの選択肢を今より増やし、子どもが行きたいと思える活動を提供する中で、より個別での対応が出来る環境を設定する。
3	・職員間の情報共有及びチームでの取り組みがしっかりとしており、相談した次の日には改善策を考えてくれること。	・その日の出来事はすぐに保護者へ連絡することを徹底しており、カンファレンスを通して、職員全員への情報共有をおこなっている。	・柔軟性、スピード性を全員が意識し、情報の漏れがないよう徹底する。 ・また、休みの職員にも情報が伝わるようSNSやカンファレンス記録を活用する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会や研修会を開催していなかった。	・感染症の流行との兼ね合いで、今まで保護者会や研修会を断念せざるを得なかったことがある。	・感染症との兼ね合いを見て、保護者会実現に向けた計画を立てていくようにする。
2	・新しい職員が入った職員名簿を配っていなかった。	・職員の入れ替えがあり、保護者様に新しい職員を紹介する機会を逃してしまった。	・早急に保護者へ職員名簿を配り、保護者様に安心感を持ってもらう。
3	・引き渡し訓練を行ったことがなかった。	・毎月防災訓練を行ってはいるが、感染症や保護者様のご都合の兼ね合いがあり、引き渡し訓練を実施するまでにはいかない。	・感染症や保護者様のご都合もあるため、無理のない範囲で実施に向けて計画を立てていく。